



# えんだより



2022年9月  
吉野幼稚園

主 題：「心と力を合わせる」

聖書のことば：「自分のことだけでなく他人のことにも注意を払いなさい」（フィリピの手紙 2：4）

一学期もなんとか無事に終わり、夏休みに入りました。一学期中、保護者の皆様方には、本園の教育活動に際しまして絶大なるご支援・ご協力を賜り、大変感謝申し上げます。

夏休みに入ってすぐに、年長児（Aグループ）を対象に、「お泊り保育」に代わって桜島での「体験学習」を実施いたしました。フェリー乗船やビジターセンター、恐竜公園や溶岩展望所、ホテルでの昼食など、盛りだくさんの内容でした。子どもたちには、きっといい思い出がたくさんできたことでしょう。

さて、前回「敏感期」についてお話しましたが、今回は子どもがその「敏感期」となっているのを見分けるためのサインについてお話します。

サイン①静けさ 子どもはいたずらをしているときに限って静かです。これは、そのことに“集中している”からです。子どもは、今の自分の成長にあっている「神様からの宿題」に出会うと、その活動（本園では「おしごと」と呼んでいます）に集中します。

本園に見学に来られた方が一番びっくりするのは、その静けさです。遊びたい盛りの子どもが十数人集まっているのに、大きな声で話す子どもが全くいない。水を打ったような静けさの中で、それぞれ違う「おしごと」に没頭している姿に圧倒されます。決して、先生に叱られるから静かにしている、わけではないのです。

サイン②繰り返し 2つ目のサインは「繰り返し」です。子どもは自分の成長にあった「おしごと」に出会うと、必ず何回も繰り返します。例えば、一生懸命取り組んで組みあがったパズルを、またひっくり返して最初から、という光景をよく見かけます。大人にとってパズルは最後まで出来上がったという充実感を味わいますが、子どもはそのプロセスの中で、自分の手が正確に動く、ピースをぴったりはめられた、という成長を感じるのが喜びなのです。ですから、出来上がった喜びよりも、その成長を確認し、もっと正確にできるように、また同じことを繰り返すのです。

わが子が、一つの活動を繰り返し始めたら、敏感期に突入し、子どもの持つ本当の力が伸びている瞬間だと気づいてあげてください。

園の教育と、家庭での教育が一体となって、素晴らしい御子を育ててまいりましょう。

【園長 野田弘之】

9月のねらい

Aグループ ・運動会の練習を通して、友だちと協力、励まし合いながら達成感や充実感を感じ、自分なりの力を発揮する。

Bグループ ・運動会の練習の中で、友だちと協力する事の楽しさを味わい、集団の団結を高める。

CDグループ ・リズムや音楽に合わせて身体を動かす楽しさを感じながら、運動会への意欲を高める。

つぼみ ・全身を使った運動遊びを楽しみ、満足感を味わう。